

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 名称「東京都立日野高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）」
- (2) 事務局の構成 事務局長（総務部主任） 計1名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、総務主任、保健主任、1学年主任、2学年主任、3学年主任 計11名
- (4) 協議委員の構成
地域代表、地域有識者（大学教授、学習塾教室長、元高等学校長）、近隣中学校長、近隣特別支援学校長、地域の関係機関職員（教育委員会）、保護者代表（PTA会長、PTA副会長）、同窓会代表 計10名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和7年6月20日（金） 内部委員11名、協議委員9名
協議委員委嘱、委員紹介、学校経営報告・計画、本校の現状と課題の報告、意見交換、評価委員の選出
第2回 令和7年10月10日（金） 内部委員11名、協議委員8名
本校の現状と課題の報告、意見交換、学校評価アンケートの内容検討
第3回 令和8年2月13日（金） 内部委員10名、協議委員9名
本校の現状と課題・学校評価アンケート結果報告、学校評価の分析と提言、意見交換、評価票記入
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和7年10月10日（金） 内部委員3名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、学校評価アンケートの実施スケジュール及び設問の検討
第2回 令和8年2月13日（金） 内部委員2名、協議委員2名
学校評価アンケートを踏まえた提言の確認、学校運営連絡協議会への提案内容の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校経営計画の検証」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：975人 回収：806人 回収率：83%
 - ・12月 保護者全員 対象：975人 回収：409人 回収率：42%
 - ・12月 地域・住民 対象：25人 回収：16人 回収率：64%
 - ・12月 教職員 対象：57人 回収：57人 回収率：100%
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備・ワーク・ライフバランスなど。
- (4) 評価結果の概要（学校及び校長への意見・提言内容）
 - ・全般的に肯定的な意見が多く、学校への信頼度が高いことが伺える。
 - ・基本的に先生方の努力や意欲が表れていると感じる。
 - ・進路指導に関する保護者の意見が改善してきている。さらなる改善も必要ではあるが、一定の成果がでたのではないかと。
 - ・交通マナーに関する指導は引き続き必要である。
 - ・高校入試の高倍率がすべてを物語っている。良い学校という印象だろう。
- (5) 評価結果の分析・考察（学校及び校長への意見・提言）
 - ・満足度も高いものが多いが、これからの進路実績が重要になってくるであろう。今後を期待している。頑張ってもらいたい。
 - ・生徒からのゴミ箱に関する要望が多いが、環境や公衆衛生への指導を続け、ごみの持ち帰りを徹底していく。
 - ・校則や指導についての意見は以前よりも減っている。日野高校の指導の形として定着しているのだと感じる。引き続き指導していく。
 - ・登下校時のマナーの指導、交通ルールやヘルメットの着用指導は引き続き行う。
 - ・進路に対する保護者向けの情報提供が改善しているが、今後は補習や講習の情報提供を強化していく。
 - ・部活と勉強の両立を目指し、学校、家庭、地域と連携して生徒を育てていく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
 - ・生徒の学びの保障に向けて様々な工夫を試行し実施できた。

- ・時代の流れや多様な生徒に対応すべく、日々の改善が必要である。
 - ・生活指導は引き続き行っていく。
 - ・高倍率の中で入学してくる生徒の期待に沿える教育をしていく。
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
- ・新校舎、高倍率ととにかく注目をされている。
 - ・進学実績の充実のための授業改善をさらに進めなくてはいけない。
- 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）
- (1) 学校運営
- ・広報活動に引き続き力を入れて、高倍率を維持していく。
- (2) 学習指導
- ・教員相互の授業参観、観点別評価の見直し、探究学習やDXを活用した指導法の工夫、改善に取り組む。
- (3) 特別活動
- ・生徒の主体的な活動を支援し、体育祭、文化祭、合唱祭の学校行事や修学旅行等の学年行事、生徒会活動、委員会活動を充実させる。また、部活動ガイドラインに則した活動指針を明示し、生徒・保護者に理解を求める等の十分な相互理解に基づいた部活動の中で結果も残していく。
- (4) 生活指導
- ・本校の生徒指導方針に基づき、指導内容の共通理解を図り、社会規範やマナーを育てるために、遅刻指導や身だしなみ指導、自転車乗車時のヘルメット着用等の安全指導の徹底を図ることを継続して行う。
- (5) 進路指導
- ・保護者への情報発信をさらに強化し、生徒への補習・講習、三者面談や二者面談、個に応じた進路指導から上位大学へ進学する実力を定着させて実績に繋げていく。
- (6) 健康・安全
- ・生徒総合支援を組織的に推進し、全教職員で生徒を見守っていく。
 - ・体育的行事を利用するとともに授業内での補助的なトレーニングや部活動で体力を高める取組を進める。また健康講話や安全講習会の実施により生徒の健康に対する意識を高めることを継続して行う。
- 6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合
- (1) 協議委員人数 10人
- (2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
8	2					

- 7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果
- ・職員会議 0回（0人）
 - ・企画調整会議 0回（0人）
 - ・協議委員による授業観察 3回（のべ6人）

- 8 その他
- ・保護者と地域のアンケート回収率向上のためにさらなる工夫をしていく。